

石川町歴史文化基本構想

概要版

文化財を保存・活用・継承していくために、そして、文化財をまちづくりへの活用に結び付けるために、「石川町歴史文化基本構想」を策定しました。

歴史文化基本構想とは

石川町にとって重要な地域資源である文化財を、指定、未指定にかかわらず幅広くとらえて、文化財をその近隣環境まで含めて、総合的に、また長期的に保存・活用するためのマスタープランです。

石川町の文化財保存・活用の基本理念と方針

基本理念

つなぐ・むすぶ
～文化財の継承とまちづくりへの活用～

石川町の文化財保存・活用の基本理念「つなぐ・むすぶ」を念頭に、文化財保存・活用の基本方針を「知る」「つなぐ」「活かす」「伝える」の4本の柱とし、下記の具体的な取り組みを行います。

知る

文化財の継続的調査を行い、その成果をもとに「石川町総合文化財情報データベース」を構築し、調査・研究成果の「見える化」を行います。

つなぐ

石川町にとって重要な文化財を計画的に指定するとともに、指定文化財の保存及び修復の支援を行い、先人が残した大切な文化財を後世へつないでいきます。

活かす

文化財を活用し、まちづくり、地域おこしへと結び付ける仕組みづくりを推進します。

伝える

文化財を次代に伝える担い手育成のための各種事業・各種講座を実施するとともに、歴史文化を大切に思う心を育むために学校教育との連携を図ります。

石川町の歴史文化の特徴

●文化の結節の地

旧石器時代から江戸時代にかけて、東西の文化が入り混じった歴史文化が見られることから、「文化の結節の地」と言えます。

●阿武隈川と人々の暮らし

阿武隈川東岸の遺跡の分布から、人々は阿武隈川沿いに生活基盤を置きながら、河川を介した交流を行っていたことが分かります。

●東日本初の自由民権運動

明治11年(1878)、東日本初の民権結社「石陽社」が結成され、自由民権運動がおこります。現在ある本町の礎は、自由民権運動が起こった時期に形成されたものと言えます。

●人々の暮らしと祭礼

人々が暮らししていくための生業と生産に関わる文化財、そして、暮らしの安定を祈る祭礼や信仰に関わる文物を、今も見ることができます。

●地質資源と人々との関わり

人々は、地質資源を時代ごとに役割や様相を変えながら活用しており、これは、地質資源が地域の歴史を大きく特徴づけていると言えます。



鳥内遺跡出土北九州系土器



自由民権史跡・鈴木重謙屋敷



石都々古和気神社の狛犬(雌獅子)



関連文化財群

大きなテーマ

時代と文化の結節の地「いしかわ」

～ 石、美し、意思 ～

これまで個別に認識されてきた文化財を、石川町の歴史文化の特徴をふまえ、地域の歴史文化を物語る資産群(テーマ)としてとらえ、「関連文化財群」としてストーリーを付け、保存・活用していきます。下記の6項目(小項目も含めて8項目)を設定しました。

関連文化財群① : 人々の定住から「石川」誕生へ

関連文化財群② : 東北と関東の架け橋・中世石川荘の世界

関連文化財群③ : 街道と交通の発展

関連文化財群④ : 自由民権運動発祥の地

関連文化財群⑤ : 大地に根差す暮らしと祈り

関連文化財群⑥ : いしかわの石の物語

関連文化財群⑥-1 : 石川の大地と鉱物・岩石

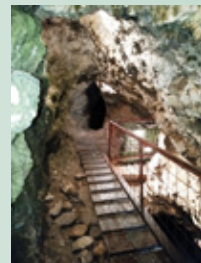
関連文化財群⑥-2 : 「いし」にまつわる戦争と平和

関連文化財群⑥-3 : 伝承高遠石工の技と関連石造物

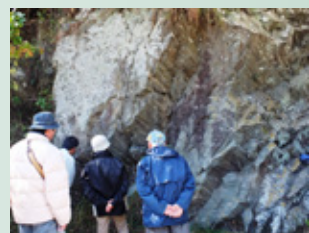
例) 関連文化財群⑥-1
石川の大地と鉱物・岩石



煙水晶
(歴史民俗資料館蔵)



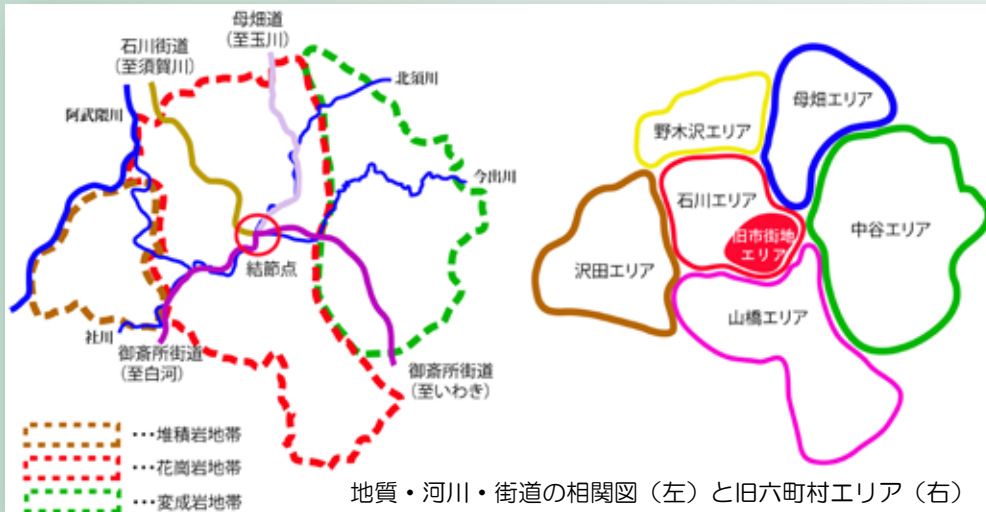
和久観音山ベグマタイト鉱床(第1鉱体)



今出川沿いに見られる変成岩

歴史文化保存活用区域

石川町の歴史文化の特徴を表すテーマにもとづく関連文化財群が多く存在する地域や、今後、文化財を活用したまちづくりの拠点となり得る地域などを選び、歴史文化保存活用区域を設定しました。



歴史文化保存活用区域を設定するにあたり、石川町の地質、河川、街道によってエリアを区分すると、昭和30年(1955)の合併前の、旧六町村に区分することができます。このことから、区域を設定する目安として、合併前の旧六町村に旧市街地を加えた7区分で、文化財の保存活用区域を設定しました。

歴史文化保存活用区域を5区域設定し、さらに、「重点保存活用区域」を2区域、「保存活用区域」を3区域に区分し、それぞれの特性、現状に応じた保存・活用への取り組みを進めます。

●重点保存活用区域とは

石川町独自の歴史文化が特徴的に見られ、かつ広く内外に知られ、「まちづくり」に寄与する保存と活用を推進することができる、行政が主導的に取り組む区域。

●保存活用区域とは

学術的研究の蓄積は少ないながらも、今後、価値をさらに見いだせる可能性があり、「地域おこし」に寄与する保存と活用を推進でき、地域が主体となりながら行政と連携を図ることが可能な区域。

重点保存活用区域①：石川・旧市街地・野木沢エリア（まちづくり区域）
和久観音山及び「石川山」区域、並びに旧市街地区域

重点保存活用区域②：旧市街地エリア（まちづくり区域）
三芦城跡（石川城）と旧市街地区域

保存活用区域①：沢田エリア（地域おこし区域）
阿武隈川東岸区域

保存活用区域②：母畑・中谷エリア（地域おこし区域）
母畑・中谷区域

保存活用区域③：山橋エリア（地域おこし区域）
山橋区域



花崗岩の巨岩を利用した明治百年記念事業「石陽社記念碑」（旧市街地区域）

歴史文化保存活用区域における文化財保存・活用の方針

重点保存活用区域①

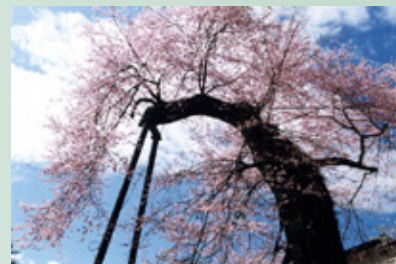
- ・和久観音山バグマタイト鉱床の県指定及び国指定天然記念物へ向けた環境整備
- ・(仮称)石川町鉱物館の整備 など



国内最大級の電気石（和久鉱山跡）

重点保存活用区域②

- ・地域資源をつなぐ「桜谷トレイル」の整備
- ・鈴木重謙屋敷を文化財ツーリズムの拠点として活用 など



石川の高田ザクラ（樹齢 500 年）

保存活用区域①

- ・遺跡の分布から見た阿武隈川防災マップの作成と防災教育
- ・小林和平作の石造物と石材切り出し場をめぐるツアー など

保存活用区域②

- ・自然景観と文化的景観を巡るトレイルコースの整備
- ・民俗芸能に関する映像・音声・画像などのデータベース化 など



民俗芸能「中田のささら」

保存活用区域③

- ・山橋地区フットパス「里山のこみち」への支援と連携
- ・山橋地区巨樹・巨木調査を活用したグリーンツーリズム など

文化財保存・活用の推進体制整備の方針

町域全ての文化財の保存・活用を行政だけで推進していくことは大変難しいです。このことから、産・学・民・官が連携・協働することによって、情報や組織体制の補完だけではなく、体制の強化やマッチングによる相乗効果などが期待できます。

イメージとしては、右の模式図のように、文化財を中心に産・学・民・官のそれぞれの輪が重なり合い、その輪が徐々に外側に広がることによって、お互い重なる部分（連携・協働）が大きくなっていき、文化財の保存と活用をより充実した体制にしていけることができます。

このことは、基本理念「つなぐ・むすぶ」を具現化したものです。

